

かほく ワークシート

河北春秋

水の都といえど大阪や広島を思い浮かべる。仙台は杜の都でも水路の印象は薄かった。テレビの人気番組の影響はとてつもないものがある。NHKの『ブラタモリ』で放映されてから、藩制時代に用水路が街を縫って流れていたと知られるようになった▼タモリさんの歩いたルートが四ツ谷用水と呼ぶ400年前の水の道。広瀬川から取水して河岸段丘の緩い坂を下った。炊事洗濯に重宝される清流として、低湿地では排水、濁水地で井戸水に工夫されている。下流域の田んぼまで全長44キロメートルもあった▼荒れ野を開くには利水、と気付いた独眼竜の眼力もさることながら、どこから工法を学んだのだろう。トンネル内に砂が沈殿しない最小流速は毎秒0.3メートルとされる。四ツ谷用水は上回っており、傾斜度も現代基準に合致する▼水の文化と土木工学に詳しい郷土史家、佐藤昭典さんの著書から拝借した。「山岳を貫いて勾配の見通しを立てた技術に敬服」とある。もしかして欧州から帰った支倉常長一行の知恵を借りた？ そんな史実はどこにもない▼百聞は一見に如かず。いまなお本流は工業用水に使われる。そのせせらぎを見たい。コンクリートのふたを外せないか。歴史ミステリーに迫り、子どもたちの教育になる宝であり、市民の願いでもある。(2015.8.14)

(2015年8月14日河北新報朝刊)

- ①仙台に昔作られた用水路の名前を書きましょう。
- ②その用水路の全長は、およそ何キロメートルありましたか。
- ③その用水路は、どんなことに使われていましたか。
- ④みなさんの身近にある用水路について、調べてみましょう。

年 組 名前

(小学4年生以上／社会・環境教育)